

ネギの栽培法

2011/10/14

特性

春まきでは2～4月にタネまきをし、7～8月に植えつけし、11月～翌春3月頃まで収穫する。秋まきでは10月～11月にタネまきをし(※注1)苗床で越冬して3～4月に植えつけし、7～10月に収穫する。小ネギや薬味用では周年栽培ができ、タネまき後50～60日で13～25cm位のを収穫する。

※注1:ネギはグリンプラントのバーナリ型なので、秋の早蒔きによる抽苔が問題となる。分けつ系の九条葱の様にトウが立っても摘蕾によって栄養成長が持続できるならよいが、一本太葱などの非分けつ系の葱はトウが立たぬようにやや遅めの播種が大切である。当地佐世保では少なくとも10月中旬以降の播種が望ましい。

タネまき

1㎡巾の平床を作り6cmの間隔ですじまきし薄く覆土、その上から灌水し、乾燥防止のため敷きワラをする。タネまき後1週間で発芽、苗床の最終株間は1～2cmである。これより密であれば本葉2～3枚の頃に間引く。秋蒔きなど生育期間が長期に亘る場合は成長を見ながら適宜条間に速効性化成肥料を追肥するとよい。

植えつけ

植えつけ時期になれば2～3日前に掘り上げて根を乾かしておく。深さ5cmの溝を掘り、10cm間隔に1株あたり2～3本ずつ苗を植えて行く。

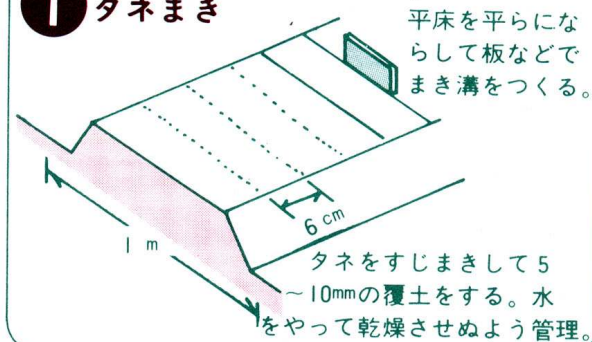
土寄せ

植えつけ後は半月に1度位の割合でうね1mにつき1握りの化成肥料を2～3回、株の様子を見ながら施す。土寄せは植えつけ後40～50日位に1度行う。

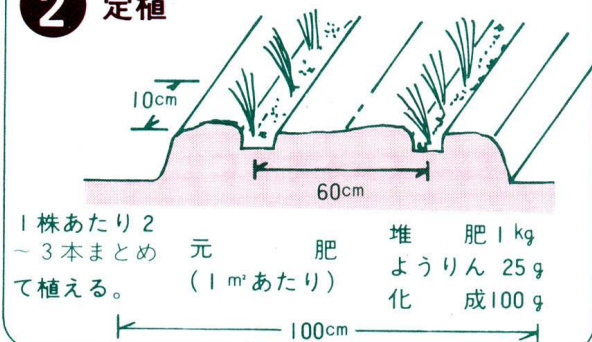
収穫までの管理

収穫は植えつけ後、約2ヶ月から出来るので、適宜、必要な株ごと掘り上げればよい。高温乾燥が続くとハモグリハエ、アブラムシ、スリップス、シロイチモンジヨトウなどの害虫が発生しやすくなる。低温多湿時や多肥の場合はべと病が、春秋の季節の変わり目でサビ病が発生しやすくなる。このように、病虫害の発生には前兆があるので、可能なら耕種的な方法で、そうでなければ早めの薬剤の予防散布が効果的である。

1 タネまき



2 定植



3 土寄せ(根深ネギ)

